

米、麦、茶葉を配合したペレット飼料は 暑熱期の肥育豚の枝肉成績を改善できる

佐賀県畜産試験場では、飼料高騰や食の安全・安心の観点から、飼料自給率の向上を図るため、輸入飼料であるトウモロコシの代替として、国内で生産される飼料用米、大麦および低利用資源（製茶加工残さ）を配合した飼料を給与した肥育豚の暑熱期に適した飼養管理技術を確立しましたので紹介します。

☆ 技術の概要

1. 飼料用米（玄米）を 40%、大麦を 15%、製茶加工残さを 1 %配合した肥育後期用飼料を調製し、佐賀県内の 2 戸の養豚農家で夏期（6～10 月）の暑熱環境下における肥育豚への不断給与試験を行い、飼養成績、枝肉成績および肉質等について、トウモロコシ主体の慣行飼料を給与した場合と比較しました。
2. 試験は LWD 去勢豚を供試し、8～11 頭の群飼で各区に 2 群ずつを割り当てました。飼料用米や大麦は、1mm 以下に粉碎処理した後、直径 3mm、長さ 1cm のペレットに成型処理しました（図 1）。
3. 米、麦、茶葉を配合した飼料を給与した豚は、トウモロコシ主体の慣行飼料を給与した豚と比較して、枝肉歩留りが向上し、背脂肪厚肥大が抑制されるなど枝肉成績が改善しました（図 2、3）。
4. 米、麦、茶葉を配合した飼料を給与した豚の肉質成績は、トウモロコシ主体の慣行飼料を給与した豚と同等の値を示し、ロース肉の官能評価では、トウモロコシ主体の慣行飼料を給与した豚肉より高評価になりました。



図 1 給与飼料



図 2 給与試験状況



図 3 試験豚のロース断面

☆ 活用面での留意点

国産飼料を多給する技術として活用が期待されますが、飼料用米や大麦等の原料は、粉碎処理を行うことが望ましいです。

当成果は、農林水産省委託プロジェクト研究（国産飼料プロジェクト）の課題である「飼料用米および麦と茶葉を組み合わせた肥育豚の暑熱対策技術の開発（課題番号 46005）」に係る研究予算によって実施されました。詳しくは、担当実施機関である佐賀県畜産試験場（中小家畜部 脇屋裕一郎、TEL: 0954-45-2030）に問い合わせください。

（日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 加茂幹男）